

## 紀要への投稿について

当センターでは、中国帰国者問題、帰国者を対象とする教育に関わる、研究論文、調査報告、実践報告などを募集しております。内容が、帰国者に関わるものであれば、分野は問いません。日本語教育はもちろん、広く学校教育、心理学、社会学等さまざまな分野からの投稿を歓迎いたします。応募したいとお考えの方は、以下のところにご連絡ください。

尚、採否は当センター紀要編集委員会で審査の上決定させていただきますので、ご了承ください。

### 《 投稿規定・方法等 》

- ・内容は未発表のものに限ります。
- ・原稿の枚数は、横書き36字×30行の形式で、10～50枚程度（図表を含む）
- ・紀要第6号の締め切り：1998年2月末日までに原稿（コピー可）をお送りください。

- ・宛先：〒359 埼玉県所沢市並木6-4-2  
中国帰国者定着促進センター  
教務課 紀要編集委員会  
：0429(93)1660（担当：佐藤 恵美子）

応募者は氏名、所属機関、職名または専攻、住所および連絡先を  
もれなくお知らせください。

- ・審査の結果は、できるだけ速やかに連絡したいと思っております。採用が決まりましたら、原稿は次の形式で改めてこちらまでお送りください。  
一太郎Ver.5～8 または、MS-DOSテキスト形式

## 編集後記

初夏の雨が続く頃、無事紀要5号の発行にこぎつけることができました。本号では「学習者の多様化への対応」や「地域の日本語教育の課題」といった古くて新しい課題へのいくつかの取り組みが紹介され、帰国者の生涯学習を支援していく道筋が少しずつ見えてきたのを感じることができます。

振り返ると、昨年夏より数カ所の自立研修センターで始まった再研修講座も、本年春からは新たに大阪帰国者センターや福島自立研修センターが加わり、試行錯誤しながらも、少しずつノウハウの蓄積が進んでいるようです。

そして、所沢でもこの一年に大きな変化が見えて来ました。従来通り定着促進センターとしてクラス運営に追われる一方、上に述べた再研修カリキュラム作成プロジェクトや自立研修センター等の学習リソースのない（あるいは少ない）地域に生活する帰国者の学習支援をめざしたプロジェクト等を平行して進めてきました。その一つの成果として3月10日には、インターネット上に中国帰国者および支援者のためのホームページ「同声同気」をオープンさせました。全国からのアクセス数の増加に、ホームページに向けられた関心や期待が伝わってきて、喜びの中にも責任を感じる今日この頃です。これからはメンテナンス体制の確立に加え、教材をはじめとする資源・情報を収集し、共有化することを目的にしたリソースルームの充実が大きな課題となります。まだ、踏み出したばかりですが、これからも全国の支援者の方の協力を得ながら、少しずつ蓄積していきたいと思えます。

以上のような取り組みの成果は今後も紀要やニュースレターの場を借りて、随時ご報告いたします。

末筆ながら、本号にご投稿いただいた関係者のみなさまに深謝いたしますと共に、ご覧いただいた方々からのご意見やご助言をお待ちしています。

紀要編集委員一同

中国帰国者定着促進センター  
紀要 第5号  
発行 : 1997年 5月31日  
編集者 : 中国帰国者定着促進センター  
教務課 紀要編集委員会  
0429(93)1660  
ホームページアドレス <http://www.kikokusha-center.or.jp>  
発行者 : 財団法人 中国残留孤児援護基金  
〒105 東京都港区虎ノ門 1-5-8  
オフィス虎ノ門1ビル  
03(3501)1050